

令和2年度大阪府立吹田東高等学校

第2回学校運営協議会

日 時：令和2年11月19日（木）

場 所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

| | | |
|-----|--------|----------------|
| ・委員 | 浦田 太 | 吹田市立千里丘中学校 校長 |
| | 竹岡 富美男 | |
| | 城下 英行 | 関西大学社会安全学部准教授 |
| | 柏渕 眞理子 | 東山田青少年対策委員会委員長 |
| | 藤浦 雅彦 | 吹田東高等学校 後援会会長 |
| | 古川 益美 | 吹田東高等学校 PTA会長 |

| | | |
|-----|-------|------------|
| 校 長 | 東 知佐子 | 吹田東高等学校 校長 |
|-----|-------|------------|

| | | |
|-----|--------|--------------|
| 事務局 | 井川 紀代子 | 吹田東高等学校 教頭 |
| | 芝野 雅人 | 吹田東高等学校 事務長 |
| | 村上 明弘 | 吹田東高等学校 首席 |
| | 山室 裕 | 吹田東高等学校 首席 |
| | 加藤 勇太 | 吹田東高等学校 教諭 |
| | 中村 圭吾 | 吹田東高等学校 教諭 |
| | 藤田 飛鳥 | 吹田東高等学校 実習教員 |

◆学校長挨拶

◆議 事

○報告事項

(1) 生徒による授業アンケート結果について（東校長）【資料①1-4】

- ・実施時期，方法の説明
第1回は令和2年7月31日実施、マークシート方式。
- ・結果分析の説明
6月に授業が再開し、2カ月の授業での結果。
- ・今後の予定の説明
現在公開授業週間を実施し、授業改善の意識を高めている。
第2回は令和2年12月25日実施予定。

Q 委員 昨年も1回目が高かったと思われるが、1回目の方が高いという傾向があるのか。
また、校舎が新しくなった効果や、1年生は入試の倍率が高かった影響はあるのか。

A 昨年は2回目がやや下がっているが、それ程変化はない。
新校舎の効果はわからないが、休校で授業が少なくなったため、教員も生徒も授業に対しての意識が高かったと思われる。

(2) 学校経営計画の進捗状況について（東校長）【資料②1-2】

- ・4月からの学校再開に向けた取り組みと今後の行事予定の説明
- ・進捗状況の説明

- Q 委員 今年度の入試倍率はどれくらいだったのか。
- A 今年度は1.41倍で、例年は1.2倍くらい。
- Q 委員 倍率が上がった原因はどのようなことが考えられるか。
- A 新校舎の影響が大きいと思われる。
- Q 委員 ICTだけを活用した授業で生徒にどのくらいの学力をつけさせられるのか難しいのではという議論はされているのか。
- A スライドだけではなく板書したりノートにまとめさせたりして併用しながら授業を進めている。
また、今年度よりGoogle Classroomを使っているが、教員によっては復習用に授業で使ったスライドをあげたりしてICTの活用を効率よく取り入れることを模索しているところである。
- 委員 大学ではこの前期よりオンライン授業が始まった。大人数の授業は講義動画を作成し視聴してもらい、Google Classroomのようなもので課題の受け渡しを行い、チェックして次の動画に取り入れたりした。少人数の授業はZOOMでディベートや研究発表をおこない、実際の授業と近い形で行った。
生徒にアンケートを取ると、自分のペースで授業を進めていけるということから、講義動画を使用した講義の方が評価は高かった。
大人数の授業については引き続きオンライン授業を行っている。
- 委員 小中学校では12月末までに一人一台パソコンが配備される。
今年度より教室にプロジェクターが設置されほとんどの教員が使用している。ICTを活用することにより板書に費やす時間が短縮され、生徒も授業に集中できるため、一定の効果がある。
- Q 委員 働き方改革において、4月から休校が続き、それを補うために夏休みが短縮されたり、教材作成等で残業が増えるなど教員の負担が大きくなっていると思われるが。
- A ICT授業のための教材作成等で教員の負担は大きくなっている。
大阪府では生徒だけでなく教員の健康面での相談窓口なども設置されている。

(3) 避難所・地域支援拠点アセスメントについて (井川教頭) 【資料③】

- ・大規模災害時初期対応マニュアルの説明

- Q 委員 吹田東高校は吹田市の指定を受けて避難所になっているのか。
- A 吹田市の指定を受けて体育館が一時避難所になっている。
- 委員 事前に地域の方と確認しておくべき事として、学校が避難所になっているが避難所の運営は学校の教員がするのではなく地域から自治会の組織を立ち上げて行っていく。災害直後は教員にも援助してもらわなければいけない部分もあるかもしれないが、早い段階で学校も再開されるので、地域の運営組織に移行しなければいけない。
また、多くの人数が避難していて学校が再開された時に、その人たちがどこへ避難場所を変更するかは、吹田市は検討しておく必要があると思われる。
- 委員 東山田地区では自治防災対策委員会があり、北部地震の時から南海トラフに備えて地域で対策している。
避難所として小中高の体育館を考えている。
備蓄に関しては小中学校で吹田市からストックしてもらっており、その資料もある。
避難所については震度6強になると開設し、防災要員が派遣される。開設は学校の職員が行う。
- A 学校の開設と使用場所の確認等は学校の職員が行い、運営は地域で行ってもらう。
- 委員 開設は学校から連絡を入れ警備員にやってもらうことになる。
- 委員 市の職員が防災要員として派遣されるが、小学校だけに配備される。
- 委員 茨木市では地域ごとに担当職員がおり、学校の職員と自主防災会の3つが連携を行っている。
- Q 委員 吹田東高校で備蓄を預かってもらうことはできるか。
- A 吹田市から正式に要請があれば検討する。
- 委員 摂津市も担当職員が決まっているが、避難所として安全に使用できるかの判断ができないのでそこに問題点がある。

○協議事項

(1) 実施要項等の改正について（井川教頭）【資料④1-3】

- ・大阪府学校運営協議会の運営に関する要項の一部改正に伴い、吹田東高校の学校運営協議会の運営に関する要項の一部改正を行う。

大阪府立吹田東高等学校運営協議会実施要項の第10条8～11項を追加する。

⇒承認された。

◆諸連絡

次回（第3回）の日程 1月で後日調整する。